

## 新河岸川水系の魚類相

佐藤正康

埼玉南部漁業協同組合 〒330-0802 埼玉県さいたま市大宮区宮町2-47

### はじめに

新河岸川水系は、川越市を流れる入間川の南側、古多摩川扇状地の北部に位置する。武蔵野礫層から湧く湧水、入間川から取水された農業用水、秋ヶ瀬取水堰から取水され朝霞水路を經由して隅田川浄化用水として放流される利根川、荒川の水、小平用水を經由して河川維持水として放流される多摩川の水が流れるという特異な環境にある。西部は狭山丘陵であり、東部は荒川と並行して流れ、東京都北区で隅田川に合流し東京湾へと注いでいる。大潮の日には水面が最大約2 m 上下する感潮河川でもある。

埼玉県に生息する魚類は、22科71種（金澤，2014）、荒川水系に生息する魚類は、19科55種（金澤ほか，1997）、新河岸川水系に生息する魚類は、12科26種（金澤ほか，1997）が報告されている。1960年代以降、新河岸川水系では河川環境が悪化し、河川漁業が成り立たなくなって久しいが、流域の下水道・下水処理設備が充実してきたことで河川の水環境については回復しつつある。埼玉県では「川の国」を掲げるまでに地域の川に対する関心が高まっていることもあり、魚類相の現況について改めて解明する必要がある。

本報告は、埼玉南部漁業協同組合の本水系における増殖事業の基礎資料とする目的で2013年から2016年まで実施した調査の結果把握できた生息魚種の概要を報告するものである。

### 調査方法

本調査においては、魚類の採捕にあたって埼玉県部分では埼玉県漁業調整規則、埼玉南部漁業協同組合の漁業権行使規則、入間漁業協同組合の遊漁規則、東京都部分では東京都内水面漁業調整規則に沿って後述の漁法を使用して実施した。調査地点は124箇所、調査期間は2013年3月から2016年9月の43ヶ月間、調査回数は延べ692回にわたって実施した。

#### (1) 調査対象水域

調査対象地域を図1に示す。調査地点を6区分（源流域、

上流域、中流域、下流域、感潮域、本流左岸側に位置する止水域）の各凡例で地図上に表した。

新河岸川水系一級河川の新河岸川・不老川・九十川・柳瀬川・空堀川・奈良橋川・東川・黒目川・落合川・越戸川・白子川と、その水系の福岡江川・富士見江川・北川の計14河川、農業用水の伊佐沼代用水、雨水幹線の砂川掘、農業用排水路の南畑大排水、及びそれらに接続する新河岸川旧河川・大森調節池・伊佐沼・宅部池・金山調節池・朝霞調節池を対象とした。調査地点は、川沿いを踏査し現場を見たうえで、その河川・用水路を代表する魚類相が豊富な地点を複数選定した。

#### (2) 使用漁法

漁具は、埼玉県部分においては投網（4節240目、9節600目、14節800目、16節900目、18節900目）、さで網（間口70cm 深さ55cm、間口40cm 深さ40cm、間口33cm 深さ40cm）を主に用い、胴付長靴着用でも入っていけない水深のある場所、濁りのある場合には四手網（間口180cm）を使用、ウナギ用の漁具・漁法として、塩ビ（VU-B）管（口径5cm 長さ100cm、口径10cm 長さ100cm）・単管パイプ（口径4.5cm 長さ100cm）の3本を束ねて作成したウナギ竹筒24統、市販の合成樹脂製ウナギ釜24統（口径13cm 長さ67cm）を用いた。東京都部分においては投網（9節600目、14節800目、16節900目、18節900目）、さで網（間口70cm 深さ55cm、間口40cm 深さ40cm、間口33cm 深さ40cm）を用いた。

#### (3) 目視調査

防水仕様のデジタルカメラによる水中動画撮影と、水面が波立たない場所においてはビデオカメラに偏光フィルターを装備し、目視でも判別可能な場合に限り、アユ、オイカワ、ヌマムツ、マルタ、コイ、ニゴイ、クルマサヨリ、ボラ、スズキについて出現した魚種を記録した。上記の種については生息環境に負荷をかけずに生息が確認できることから非常に実施しやすい方法である。

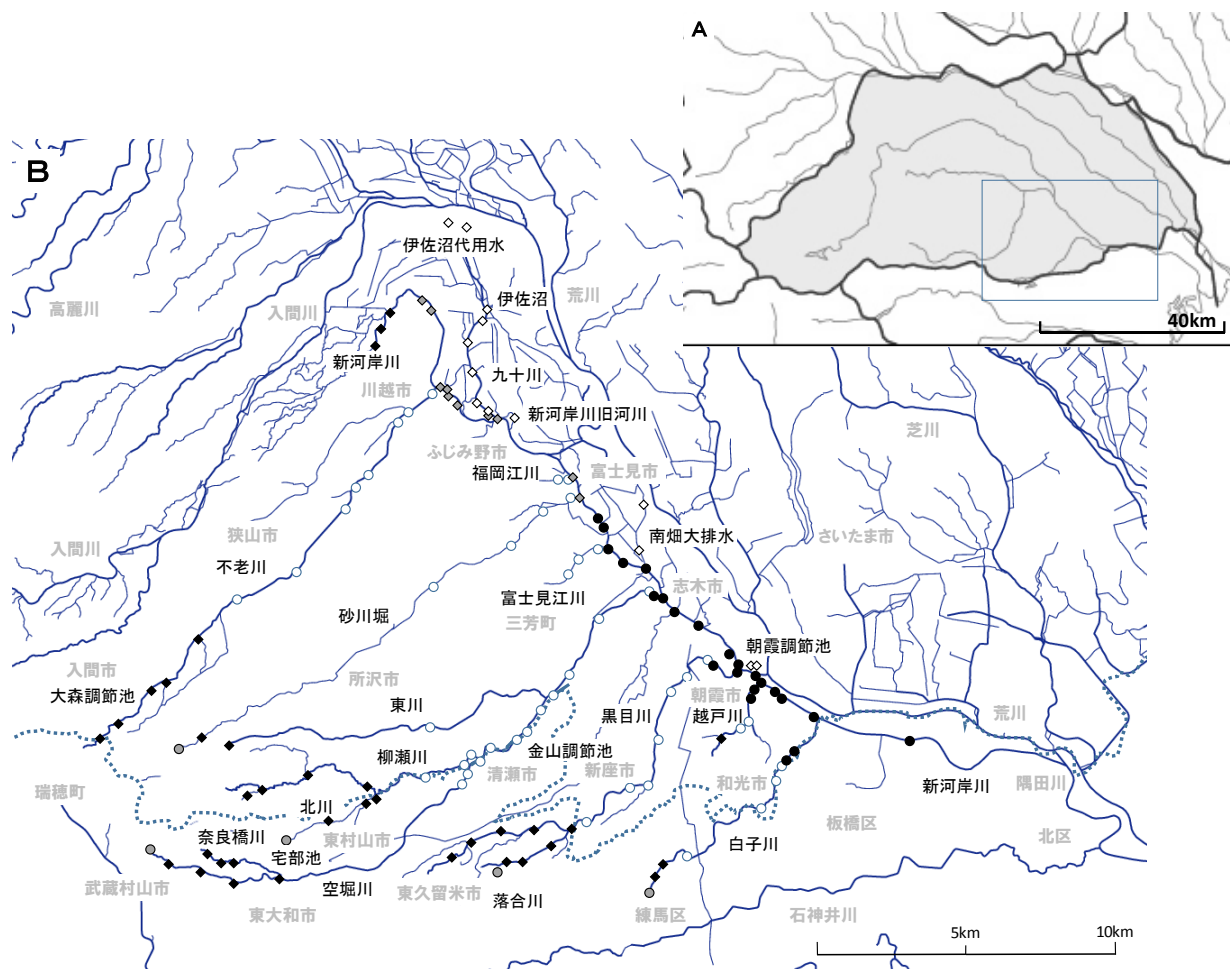


図1. 新河岸川水系位置図

A：埼玉県内における新河岸川水系の位置（「白地図フリーソフト」を元に作図）枠線はBの範囲。

B：新河岸川水系河川図ならびに調査地点（「川だけ地形図」を元に作図。提供：国土交通省 荒川下流河川事務所）

調査地点凡例：グレーの○源流域 ◆上流域 ○中流域 グレーの◇下流域 ●感潮域 ◇本流左岸に位置する止水域

(4) その他

市民団体、個人によって投網、さで網、置き釣を用いて行われた調査・イベントに参加し、その地点で捕獲されたことが確認できたものを記録した。

が存続するような環境自体が極めて限られており、かつ、雨水管の接続により生息環境は悪化する一方である。現時点で生息が確認されている箇所も非常に狭い範囲であり、本水系ではいつ絶滅してもおかしくない状況に置かれている。

結 果

2013～2016年に実施した調査において出現した魚類は在来種11科29種、国外外来種4科7種、国内外来種4科12種、計15科48種であった。調査で出現した種と概要を魚種別に記載する。

A. ヤツメウナギ科

1. スナヤツメ類 *Lethenteron* sp.N-sp.S complex 希少種保護の観点から具体的な記述は避けるが、本水系では本種の生息

B. ウナギ科



2. ニホンウナギ *Anguilla japonica* 川越市・朝霞市・和光市・板橋区の新河岸川、朝霞市の黒目川、和光市・板橋区の子白子川で確認された。現状の河川整備では本種が生息できる隠れ場所が少ない区間も多く、生息場所としての蛇籠設置などの整備が必要である。

C. アユ科

3. アユ *Plecoglossus altivelis altivelis* 川越市・富士見市・志木市の新河岸川、川越市の不老川、福岡江川、富士見市の砂

表 1. 新河岸川水系魚種別確認範囲

新河岸川水系での確認範囲		源流域	上流域	中流域	下流域	感潮域	本流左岸側に位置する止水域
ヤツメウナギ目	スナヤツメ類						
ウナギ目	ニホンウナギ						
サケ目	アユ						
コイ目	カワムツ						
	スサキ						
	オイカワ						
	ウグイ						
	マルタ						
	アブラハヤ						
	タカハヤ						
	タモロコ						
	ホンモロコ						
	モツゴ						
	カマツカ						
	ツチフキ						
	スゴモロコ						
	ニゴイ						
	コイ						
	キンブナ						
	ゲンゴロウブナ						
ギンブナ							
タイリクバラタナゴ							
ドジョウ							
カラドジョウ							
シマドジョウ							
ホトケドジョウ							
ナマズ目	ギハチ						
	ナマズ						
ダツ目	メダカ類						
	クルマメサヨリ						
カダヤシ目	カダヤシ						
	グッピー						
スズキ目	ボラ						
	スズキ						
	オオクチバス						
	コクチバス						
	ブルーギル						
	カワアナゴ						
	シマヨシノボリ						
	カワヨシノボリ						
	ヨシノボリ属の一種						
	ヌマチチブ						
	ジュズカケハゼ						
	ムサシノジュズカケハゼ						
	ウキゴリ						
スミウキゴリ							
マハゼ							
	アシシロハゼ						

凡例・・・  一箇所のみ確認されたもの  複数箇所でも確認されたもの

川掘、富士見江川、所沢市・東村山市・清瀬市・新座市・富士見市・志木市の柳瀬川、清瀬市の空堀川、東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川、落合川、越戸川、和光市・板橋区の白子川で確認された。

遡上開始は、新河岸川・柳瀬川合流部では2016年3月5日に確認された。目視調査から本水系で遡上が本格化するの通常5月であると思われるが、解禁前の遡上状況については明らかではない。所沢市・清瀬市の柳瀬川（2013年6月28日）と、和光市・板橋区の白子川（2014年6月10日）では、落差直下に稚魚が群れる様子が水中撮影において確認されたことから、本水系における本種の遡上は6月下旬まで続くものと思われる。

遡上障害物の上・下流の本種の生息状況から稚アユの遡上を妨げていると思われる河川横断構造物を以下に上げる。平水時の遡上が難しいものでは、川越市の新河岸川・宮下橋上流の堰、狭山市の不老川・草刈橋下流の落差工、富士見市の砂川堀・新河岸川合流部の落差工、富士見市の富士見江川・新河岸川合流部の落差工、所沢市・清瀬市の柳瀬川・清瀬橋

上流の落差工、松柳橋下流の落差工、金山調節池下流の落差工、清瀬市の空堀川・薬師橋上流の落差工、新座市の黒目川・石神橋上流の落差工、千代田橋下流の落差工、東久留米市の落合川・美鳥橋下流の堰、和光市・板橋区の白子川・白子橋上流の落差工、寺前橋下流の落差工、城口橋上流の落差工、水木橋上流の落差工がある。増水時においても遡上不可能と思われるものでは朝霞市・和光市の越戸川・日の出橋の落差工、和光市・板橋区の白子川・新東崎橋の落差工があり、構造物そのものの造り変えか、もしくは魚道の設置が望まれる。

成育状況は、黒目川では2014年9月に最大全長27cmの個体が確認されたが、同年、同時期の空堀川の個体は最大全長12cmであり、河川によって成育状況にばらつきが見られた。柳瀬川、黒目川では個人の判断で毎日食用に供しているという話が複数の遊漁者から聞かれた。

埼玉南部漁業協同組合では、漁業権魚種の増殖事業で荒川で採捕した稚アユを2004年から黒目川で、2009年からは柳瀬川・松戸橋を加えた計2箇所でも毎年放流している。放流は遡上の障害物がない上流域まで運搬して行われている。また、



図2. 2015年11月5日 柳瀬川・アユ産卵の様子

埼玉南部漁業協同組合の遊漁規則・漁業権行使規則では、黒目川の岡橋から花ノ木橋の区間においてアユの産卵保護のため10月1日から10月15日まで禁漁期間を設けている。

産卵場では、河床の付着卵の確認を行った。本調査の期間中では、柳瀬川では所沢市・清瀬市の城前橋上流・下流、関越自動車道上流、清瀬水再生センター前、富士見市・志木市の東武東上線鉄橋下流、栄橋上流で、黒目川では新座市の馬喰橋下流、朝霞市の溝沼黒目橋上流・下流、東林橋下流、東武東上線鉄橋上流、岡橋上流で、越戸川では朝霞市・和光市の赤池橋上流で付着卵が確認され、所沢市・清瀬市の柳瀬川、朝霞市の黒目川で比較的大きな面積において付着卵が確認されることが多かった。柳瀬川・黒目川・越戸川での水中撮影で確認できる状況から、いずれの河川でも10月中旬から11月上旬の間に産卵のピークが見られた。本水系で通常12月に親魚が見られることはまれであるが、付着卵の確認状況からは黒目川で産卵が長引いた2015年には、翌2016年1月1日まで発眼卵が確認された。

#### D. コイ科

4. カワムツ *Candidia temminckii* 本来は生息しない国内外来種である。狭山市の不老川、所沢市・東村山市・清瀬市の柳瀬川、北川、清瀬市の空堀川、東川、東久留米市・新座市の黒目川、落合川、練馬区・和光市の白子川で確認された。

5. ヌمامツ *Candidia sieboldii* 本来は生息しない国内外来種である。狭山市の不老川、富士見市の砂川掘支流の水路、東川で確認された。カワムツと混生しているところも見られるが本水系では比較的の生息域は狭い。本種は胸鰭の縁の朱色が目立つため大型の個体であれば目視でも同定が可能である。川越市の仙波河岸跡湧水池においてもオイカワと群泳する本種が目視で確認された。

6. オイカワ *Opsariichthys platypus* 川越市・ふじみ野市・富士見市・志木市・朝霞市・板橋区の新河岸川、狭山市、川越市の不老川、伊佐沼代用水、伊佐沼、九十川、富士見市の砂



図3. 2015年3月9日 柳瀬川・マルタ産卵の様子

川掘、富士見江川、所沢市・東村山市・清瀬市・新座市の柳瀬川、北川、武蔵村山市・東大和市・清瀬市の空堀川、奈良橋川、東川、東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川、朝霞調節池、落合川、越戸川、和光市・板橋区の子子川で確認された。不老川、富士見江川、柳瀬川、空堀川、黒目川で比較的多く見られる。産卵場所や、稚魚が育つ環境が整っているためか一部では増えている。本水系で最も広く見られる魚種の一つである。

7. ウグイ *Tribolodon hakonensis* 朝霞市の黒目川で確認された。本種とマルタの幼魚は酷似するため現場では同定が困難であり、今回の調査では精査していない。2014年10月8日、黒目川で行った水中撮影でアユの集団産卵に紛れている婚姻色を呈した本種が確認された。また、2015年4月16日、所沢市・清瀬市の柳瀬川でマルタ産卵中の水中撮影からウグイ独特の婚姻色を呈したウグイ降海型と思われる存在が見られた。本水系で婚姻色を呈したウグイの成魚が見られるのはごくまれである。

8. マルタ *Tribolodon brandtii* 川越市・朝霞市の新河岸川、川越市の不老川、清瀬市・新座市・富士見市・志木市の柳瀬川、新座市・朝霞市の黒目川、越戸川、和光市・板橋区の子子川で確認された。産卵週上個体は3・4・5月に見られる。上記の他に、本水系の中流域から感潮域にかけて見られるウグイ属の多くは本種の幼魚の可能性が高いと思われるが今回の調査では精査していない。

9. アブラハヤ *Phoxinus lagowskii steindachneri* 狭山市・川越市の不老川、金山調節池、落合川、東久留米市・新座市の黒目川、練馬区・和光市の白子川で確認された。落合川、黒目川で比較的多く見られる。

10. タカハヤ *Phoxinus oxycephalus jouyi* 本来は生息しない国内外来種である。入間市の不老川、大森調節池、落合川、練馬区の子子川で確認された。落合川周辺でアブラハヤと混生しており、練馬区の子子川でもわずかが生息している。入間市の不老川では本種が優占種となっており、隣接する大

森調節池でも確認された。関東地方には本来分布しない種であり、侵入経路は明らかではないが、1985年には本種が定着している多摩川から狭山湖に侵入している可能性があると考えられている（金澤，2014）ことから、東久留米市の河川でも用水路を介して接続している多摩川から侵入した可能性が考えられる。不老川・白子川への侵入経路についても不明だが、本来生息しない地域への動植物の持ち込みは生態系を破壊することにつながる行為であり絶対にやめるべきである。

11. **タモロコ** *Gnathopogon elongatus elongates* 川越市・富士見市・朝霞市の新河岸川，入間市・川越市の不老川，伊佐沼代用水，伊佐沼，九十川，三芳町・富士見市の砂川堀，南畑大排水，所沢市・清瀬市・東村山市・清瀬市の柳瀬川，北川，武蔵村山市・東大和市・清瀬市の空堀川，奈良橋川，金山調節池，東川，東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川，落合川，練馬区・和光市の白子川で確認された。本水系で最も広く見られる魚種の一つである。移入されたと言われており，本報告では国内外来種扱いとする。

12. **ホンモロコ** *Gnathopogon caeruleus* 本来は生息しない国内外来種である。伊佐沼で確認された。伊佐沼では食用に本種やエビを捕っている漁協組合員がいる。どのような経路で侵入したか明らかではないが，流域の養魚農家で本種が養殖されており，逃避した可能性もある。タモロコとの交雑と思われる個体も見られた。

13. **モツゴ** *Pseudorasbora parva* 川越市・ふじみ野市・富士見市・朝霞市・和光市の新河岸川，入間市・川越市の不老川，大森調節池，伊佐沼代用水，伊佐沼，九十川，三芳町・富士見市の砂川堀，富士見江川，南畑大排水，所沢市・東村山市・清瀬市・富士見市・志木市の柳瀬川，北川，武蔵村山市・東大和市の空堀川，奈良橋川，金山調節池，東川，東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川，朝霞調節池，落合川，越戸川，練馬区・和光市・板橋区の白子川で確認された。伊佐沼，南畑大排水，朝霞調節池に比較的多く見られる。本水系で最も広く見られる魚種の一つである。

14. **カマツカ** *Pseudogobio esocinus esocinus* 川越市・ふじみ野市・富士見市・志木市・朝霞市・板橋区の新河岸川，川越市の不老川，所沢市・東村山市・清瀬市・志木市の柳瀬川，北川，東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川で確認された。上流域から感潮域まで広く生息している。

15. **ツチフキ** *Abbottina rivularis* 本来は生息しない国内外来種である。伊佐沼代用水，伊佐沼，九十川，川越市・ふじみ野市の新河岸川旧河川で確認された。伊佐沼代用水でよく見られる。

16. **スゴモロコ** *Squalidus chankaensis biwae* 本来は生息し

ない国内外来種である。川越市・ふじみ野市・朝霞市の新河岸川，朝霞市の黒目川で確認された。

17. **ニゴイ** *Hemibarbus barbus* 川越市・富士見市・志木市・朝霞市・和光市・板橋区の新河岸川，川越市の不老川，富士見江川，所沢市・清瀬市・富士見市・志木市の柳瀬川，新座市・朝霞市の黒目川，和光市・板橋区の白子川で確認された。遡上困難の落差直下まで見られる。

18. **コイ** *Cyprinus carpio* 川越市・ふじみ野市・富士見市・志木市・朝霞市・板橋区の新河岸川，狭山市・川越市の不老川，伊佐沼代用水，伊佐沼，九十川，福岡江川，富士見市の砂川堀，富士見江川，南畑大排水，所沢市・東村山市・清瀬市・新座市の柳瀬川，金山調節池，北川，東大和市・清瀬市の空堀川，東川，東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川，越戸川，練馬区・和光市・板橋区の白子川で確認された。本水系で最も広く見られる魚種の一つである。

19. **キンブナ** *Carassius buergeri* subsp.2 大森調節池，川越市・ふじみ野市の新河岸川旧河川，金山調節池，奈良橋川，東久留米市の黒目川で確認された。

20. **ゲンゴロウブナ** *Carassius cavieri* 本来は生息しない国内外来種である。富士見市・朝霞市・板橋区の新河岸川，伊佐沼，九十川，川越市・ふじみ野市の新河岸川旧河川，福岡江川，南畑大排水，北川源流の宅部池で確認された。

21. **ギンブナ** *Carassius* sp. 川越市・ふじみ野市・富士見市・朝霞市・和光市・板橋区の新河岸川，入間市・狭山市・川越市の不老川，九十川，福岡江川，富士見市の砂川堀，富士見江川，南畑大排水，清瀬市・富士見市・志木市の柳瀬川，北川，東大和市の空堀川，東川，新座市，朝霞市の黒目川，朝霞調節池，越戸川，練馬区・和光市の白子川で確認された。新河岸川に比較的多く見られる。本水系で最も広く見られる魚種の一つである。

22. **タイリクバラタナゴ** *Rhodeus ocellatus ocellatus* 本来は生息しない国内外来種である。川越市・ふじみ野市・富士見市・朝霞市の新河岸川，伊佐沼代用水，伊佐沼，九十川，川越市・ふじみ野市の新河岸川旧河川，朝霞調節池で確認された。

#### E. ドジョウ科

23. **ドジョウ** *Misgurnus anguillicaudatus* 川越市・富士見市の新河岸川，入間市・狭山市・川越市の不老川，大森調節池，伊佐沼代用水，九十川，福岡江川，三芳町・富士見市の砂川堀，富士見江川，南畑大排水，所沢市・東村山市・清瀬市の柳瀬川，北川，武蔵村山市・東大和市・清瀬市の空堀川，奈良橋川，東川，東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川，落合

川, 越戸川, 練馬区・和光市・板橋区の子子川で確認された。砂川堀, 富士見江川, 奈良橋川に比較的多く見られる。伊佐沼では埼玉南部漁業協同組合による放流が行われている。

24. カラドジョウ *Misgurnus dabryanus* 本来は生息しない国外外来種である。川越市, 富士見市の新河岸川, 富士見市の砂川堀, 東大和市の空堀川, 奈良橋川で確認された。

25. シマドジョウ *Cobitis bivaie* 清瀬市の柳瀬川, 東川, 新座市・朝霞市の黒目川, 落合川, 練馬区・和光市の白子川で確認された。

26. ホトケドジョウ *Lefua echigonia* 富士見市の砂川堀支流の水路, 東久留米市の黒目川, 落合川, 練馬区・和光市の白子川で確認された。

#### F. ギギ科

27. ギバチ *Tachysurus tokiensis* 狭山市, 川越市の不老川, 清瀬市の空堀川, 新座市の黒目川で確認された。

#### G. ナマズ科

28. ナマズ *Silurus asotus* 川越市・朝霞市の新河岸川, 川越市の不老川, 九十川, 福岡江川, 所沢市・東村山市・清瀬市・新座市の柳瀬川, 清瀬市の空堀川, 東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川, 越戸川で確認された。伊佐沼では漁業権魚種の増殖事業として埼玉南部漁業協同組合による放流が行われている。明治以前に移入されたと言われており, 本報告では国内外来種扱いとする。

#### H. メダカ科

29. メダカ類 *Oryzias* sp. 川越市・富士見市・朝霞市・和光市・板橋区の新河岸川, 入間市・川越市の不老川, 大森調節池, 伊佐沼, 伊佐沼代用水, 九十川, 福岡江川, 所沢市・三芳町・富士見市の砂川堀, 富士見江川, 南畑大排水, 所沢市・東村山市・清瀬市・富士見市・志木市の柳瀬川, 北川, 空堀川, 金山調節池, 東川, 東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川, 落合川, 朝霞調節池, 越戸川, 練馬区の子子川で確認された。概ねミナミメダカの特徴を持った個体が広く見られるが, ヒメダカが混生している場合もあることから放流個体が多いと思われる。在来の個体群が生息しているかは不明である。本水系で最も広く見られる魚種の一つである。

#### I. サヨリ科

30. クルメサヨリ *Hyporhamphus intermedius* 朝霞市の新河岸川, 朝霞市の黒目川で確認された。

#### J. カダヤシ科

31. カダヤシ *Gambusia affinis* 本来は生息しない国外外来種である。和光市の新河岸川, 川越市・ふじみ野市の新河岸川旧河川, 富士見市・志木市の柳瀬川, 朝霞市の黒目川で確認された。

32. グッピー *Poecilia reticulata* 本来は生息しない国外外来種である。所沢市・清瀬市・新座市の柳瀬川, 東大和市の空堀川, 東久留米市・朝霞市の黒目川で確認された。柳瀬川の清瀬水再生センター放流口付近では, 素手で簡単に掬うことができるほど多く確認された。本来の生息魚種ではない本種が繁殖することで生物多様性に悪影響を与えることが懸念される。

#### K. ボラ科

33. ボラ *Mugil cephalus cephalus* 川越市・ふじみ野市・富士見市・志木市・朝霞市・和光市・板橋区の新河岸川, 九十川, 富士見江川, 所沢市・清瀬市・新座市・富士見市・志木市の柳瀬川, 朝霞市の黒目川, 朝霞調節池, 越戸川, 和光市・板橋区の子子川で確認された。春には稚魚が遡上し, 感潮域では40 cm 程の個体が群れている様子が目視で見られる。本水系の感潮域で最もよく見かける種である。

#### L. スズキ科

34. スズキ *Lateolabrax japonicus* 富士見市・志木市・朝霞市・板橋区の新河岸川, 朝霞市の黒目川, 越戸川, 和光市・板橋区の子子川で確認された。春に稚魚が遡上し, 大型のものでは全長40 cm 程の個体が感潮域を中心に5月から9月に確認されている。

#### M. サンフィッシュ科

35. オオクチバス *Micropterus salmoides* 本来は生息しない国外外来種である。朝霞調節池, 北川源流の宅部池で確認された。朝霞調節池では日常的にバス釣りが行われている。また, 上記以外に新河岸川・柳瀬川においても生息情報がある。本種は, 生態系への影響が大きく優先的に駆除すべき種である。

36. コクチバス *Micropterus dolomieu dolomieu* 本来は生息しない国外外来種である。川越市・志木市・朝霞市の新河岸川, 伊佐沼代用水, 伊佐沼, 所沢市・清瀬市・富士見市・志木市の柳瀬川, 北川で確認された。本種は, 生態系への影響が大きく優先的に駆除すべき種である。入間川水系にも広く生息しており, 本水系には農業用水を介して継続的に侵入していると考えられる。

37. **ブルーギル** *Lepomis macrochirus macrochirus* 本来は生息しない国外外来種である。川越市・朝霞市の新河岸川, 伊佐沼, 九十川, 朝霞調節池で確認された。また, 上記以外に伊佐沼代用水・不老川・柳瀬川においても生息情報がある。本種は, 生態系への影響が大きく優先的に駆除すべき種である。

#### N. カワアナゴ科

38. **カワアナゴ** *Eleotris oxycephala* 和光市の新河岸川で確認された。2016年6月10日に仕掛けたウナギ釜で, 6月17日に16 cm, 7月8日に17 cm, 8月8日に18 cmの個体が捕獲された。埼玉県では過去の記録がなく, 移入された可能性があり(金澤, 2014), 本報告では国内外来種扱いとする。

#### O. ハゼ科

39. **シマヨシノボリ** *Rhinogobius nagoyae* 和光市・練馬区の白子川で確認された。頬に明瞭なミミズ斑が認められたことから本種と同定した。新東埼玉橋落差工上流の限られた地点でのみ確認されている。放流個体の可能性があるが, 2年連続(2015年7月28日, 2016年8月26日)で確認されたことから, 他の地点での生息の有無などが今後の調査課題である。これまでに埼玉県内では記録がなく, 本報告では国内外来種扱いとする。

40. **ヨシノボリ属の一種** *Rhinogobius* sp. 川越市・富士見市の新河岸川, 入間市・川越市の不老川, 伊佐沼代用水, 伊佐沼, 九十川, 南畑大排水, 所沢市・東村山市・清瀬市・富士見市・志木市の柳瀬川, 北川, 武蔵村山市の空堀川, 金山調節池, 東川, 朝霞市の黒目川, 朝霞調節池, 和光市・練馬区の白子川で確認された。形態的な特徴からクロダハゼの可能性が高いと思われるが, ヨシノボリ類の分類は混迷しており, 詳細な種名は同定困難であることから, 本報告ではヨシノボリ属の一種とした。

41. **カワヨシノボリ** *Rhinogobius flumineus* 本来は生息しない国内外来種である。東久留米市・新座市の黒目川で確認された。市境付近で2008年頃から確認されている。2012年からは生息数が大幅に増え, 生息範囲も拡大している。本種が繁殖し, 入れ替わるようにそれまで普通に見られたスミウキゴリが見られなくなった水域があることから, 競合等の悪影響が懸念される。今後の経過を注視すべき種である。

42. **ヌマチチブ** *Tridentiger brevispinis* 川越市・ふじみ野市・富士見市・志木市・朝霞市・和光市・板橋区の新河岸川, 伊佐沼代用水, 伊佐沼, 九十川, 富士見江川, 所沢市・清瀬市・新座市・富士見市・志木市の柳瀬川, 朝霞市の黒目川,

越戸川, 和光市・板橋区の白子川で確認された。2015年7月30日, 朝霞・和光市境の越戸川では石の裏面に産み付けられた卵と, それを保護する親魚と思われる個体が見られた。

43. **ジュズカケハゼ** *Gymnogobius castaneus* 伊佐沼代用水, 伊佐沼, 九十川で確認された。

44. **ムサシノジュズカケハゼ** *Gymnogobius* sp.1 入間市・狭山市の不老川, 大森調節池, 落合川で確認された。著者は1999年から落合川で魚類の採捕を行っているが, 本種は2005年頃から見られるようになった。

45. **ウキゴリ** *Gymnogobius urotaenia* 川越市・富士見市・和光市・板橋区の新河岸川, 川越市の不老川, 伊佐沼代用水, 九十川, ふじみ野市の新河岸川旧河川, 福岡江川, 富士見江川, 南畑大排水, 所沢市・清瀬市・新座市・富士見市・志木市の柳瀬川, 新座市・朝霞市の黒目川, 朝霞調節池, 越戸川, 和光市・板橋区の白子川で確認された。

46. **スミウキゴリ** *Gymnogobius petschiliensis* 川越市・和光市・板橋区の新河岸川, 川越市の不老川, 福岡江川, 富士見江川, 所沢市・清瀬市の柳瀬川, 東久留米市・新座市・朝霞市の黒目川, 越戸川, 練馬区・和光市・板橋区の白子川で確認された。ウキゴリが確認されていない落差上流部にも生息しており, 黒目川(新座市)の石神橋落差工(落差70 cm)と, 白子川(和光市)の新東埼玉橋落差工(落差160 cm)より上流域で確認できるのは本種である。

47. **マハゼ** *Acanthogobius flavimanus* 川越市・ふじみ野市・志木市・朝霞市・板橋区の新河岸川, 富士見市・志木市の柳瀬川, 朝霞市の黒目川, 越戸川, 和光市・板橋区の白子川で確認された。

48. **アシシロハゼ** *Acanthogobius lactipes* 朝霞市・板橋区の新河岸川, 和光市・板橋区の白子川で確認された。

## 謝 辞

本調査では, 藤井智也氏, 守山義一氏, 松村隆氏, 藤身諭氏, 五月女精一氏, 阿部雄也氏, 泉北斗氏, 福田康雄氏, 小池巧氏, 藤井由美子氏, 野口龍太氏, 天野俊興氏, 江口博氏, 千野治夫氏, 坂本孝信氏, 亀井義之氏, 小林一己氏, 菅谷輝美氏, 小松原昌男氏, 荒井大介氏, 井口卓磨氏にご協力を頂いた。また, 不老川流域川づくり市民の会, 北川水辺倶楽部, 柳瀬川をきれいにする会, 空堀川に清流を取り戻す会, 東川をきれいにする会, エコシティ志木, 柳瀬川探検隊(富士見市), 東久留米川クラブ, 黒目川流域川づくり懇談会, 黒目川に親しむ会, 和光自然環境を守る会, 白子川源流水辺の会, 白子川の流域と水環境を良くする会の皆さんには各調査・イ

ベント時にお世話になった。環境科学国際センターの金澤光氏には、魚種の同定、各調査方法などでもご指導を頂いた。上記の方々のご協力に、ここに改めて感謝申し上げます。

## 文 献

金澤 光・田中繁雄・山口光太郎, 1997. 埼玉県の生息魚類の分布について. 埼玉県水産研究所研究報告, **55**:62-106.

金澤 光, 2014. 埼玉県に生息する魚類の生息状況について. 埼玉県環境科学国際センター報, **14**:95-106.  
水情報国土データ管理センター, 河川水辺の国勢調査のための生物リスト. 平成27年度生物リスト. <http://mizukoku.nilim.go.jp/ksnkankyo/mizukokuweb/system/seibutsuListfile.htm> (2016年2月21日閲覧)

# Fish fauna in the Shingashigawa river systems

Masayoshi SATO

Fisheries Cooperative Association of Saitama-nanbu. 2-47, Miya-cho, Oomiya, Saitama, 330-0802 JAPAN